

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】(A中学校)

教室に「ほめほめありがとうカード」と「ポスト」を設置している。感謝を伝えたい人に対して、カードにその気持ちを記入してポストに投函し、後日カードが生徒に届くようになっている。カードをもらった生徒は笑顔を浮かべるなど、感謝されて喜ぶ様子が見られた。

努力した取組が認められることで、生徒の自己肯定感を育むことにつながっている。また、感謝を伝え合う活動を通して、クラスが前向きな雰囲気になってきている。



#### 【取組2】(A中学校)

オーストラリアから留学生が来校し、二日間の学校体験を行った。その際、校内別室を利用している生徒が歓迎会に参加できるように、不登校対応巡回教員が支援した。体育館で行った歓迎行事で国歌を演奏で聴いたり、教室で行った特別授業に参加し、漢字を書いたりするなど、留学生と交流して人間関係を築く経験となった。



#### 【取組3】(B中学校)

理科の授業で、気圧の変化についてグループで調べ学習を行った。気圧を測って、変化した結果をプリントに記入し、気圧の変化を予測して思考を深めていた。必要に応じて、グループ内で話し合いを行いながら考察の共有をした。ペアやグループによる対話を通して生徒の学びが深まるよう、教員は考えを深める質問を提示し、生徒の考えをつなぐ役割を果たすなど、共感的な人間関係の育成を図っている。

#### 【取組4】(C中学校)

全教職員を対象に、不登校対応巡回教員の職務や不登校への理解等をテーマに校内研修を実施した。不登校対応巡回教員の職務内容を説明し、欠席が続く生徒への支援の方法を協議した。その結果、欠席が続く生徒への対応に悩む教員から、協力を要請されるなど、校内研修が教員と信頼関係を築き、連携を深めるきっかけになった。

## 多様な学びの場を確保する取組

### （「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

#### 支援会議（D中学校）

毎週定期的に会議を行っている。主に学年ごとに支援を必要とする生徒の週単位の状況を把握し、SSWやSC、不登校対応巡回教員が支援する生徒の様子も含め、情報共有を行っている。校内別室に登校する生徒への支援の在り方について支援会議で協議し、生徒の状況に応じた支援を実施できるように検討している。

#### アウトリーチによる支援（C中学校）

長期間欠席が続く3年生に対して、SSWと不登校対応巡回教員が定期的に家庭訪問をしている。修学旅行の準備をするために登校支援を行い、学校に登校することができた。SSWは保護者と連携して生徒を支援し、不登校対応巡回教員は生徒が登校できるように生徒との信頼の構築を図っている。

#### 校内別室における支援（D中学校）

オープンスペースとしての部屋と、A、B、Cの部屋とで分けている。広い部屋では、校内別室の生徒同士が会話する場になっている。人目が気になる生徒や、クールダウンを行う場合は個室のA、B、Cの部屋を使用するなど、目的に沿って部屋を使い分けている。

校内別室を利用する生徒が、一日の予定を立てて過ごせるように支援をしている。授業の補習等を実施できるよう教員や生徒を支援し、教員と生徒のつながりが継続するようにしている。



#### デジタル機器を活用した支援（E中学校）

授業のオンライン配信を校内別室に登校する生徒に向けて行い、授業に参加できるようにしている。

校内別室に登校する生徒に対して、生徒の状況に応じた学習課題を提示している。音楽では、一人1台端末を活用し、課題の曲を聴いて感想をプリントに書いて提出するなどして評価につなげている。

#### 関係機関との連携（E中学校）

SSWを中心に連携をしている。SSWが学校に来るきっかけをつくり、不登校対応巡回教員が生徒との信頼関係づくりを行うなど、連携して生徒の支援をしている。また、生徒の様子を校内で共有し、担任や学年教員と連携して生徒の支援計画を立てて、生徒との信頼関係を構築できるように取り組んでいる。

## 成 果

- ・不登校支援について校内別室の運営や対応方法を学校と関係機関で共有し、改善をすることができた。
- ・教科担当の先生に声掛けをし、学習支援を提案するなど、教員と生徒とのつながりを継続するような取組を行った。

## 課 題

- ・教職員の、不登校生徒への理解を一層深めていく必要がある。
- ・不登校対応巡回教員が、支援を必要としている生徒の状況を適切に把握できる環境整備を行う必要がある。